

○平成 22 年度 第 7 回泉佐野市行政評価外部評価委員会会議録案

日時 平成 23 年 1 月 18 日（火）午前 10 時～午前 10 時 40 分

場所 本庁 5 階理事者控室

【事務局】

定刻となりましたので、始めさせていただきます。政策推進課植田でございます。開催に先立ちまして、今回委員の皆様全員の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。では、早速ですが委員長に議事の進行をお願いします。

【委員長】

皆さんおはようございます。おかげさまで今日が最終回ということでございます。ご協力をお願いしたいと思います。今日は傍聴の方いらっしゃらないでしょうか。

【事務局】

今日はおりません。

【委員長】

わかりました。このまま委員会を進めさせていただきます。昨年 12 月に委員会で、報告書のまとめ方についてご協議を頂きました。この間、事務局と皆さん方からご指摘をいただきまして、私の方で目を通させていただきました。そういうやりとりを経て、今日の最終案となっています。その内容を確認した後、市へ提出させていただきたいと思います。事務局の方から説明をお願いします。

【事務局】

委員長をはじめ、委員の皆様方には、お忙しい年末から年頭にかけて、報告書のとりまとめにご協力頂きましてありがとうございました。

それではまず昨年 12 月 3 日の委員会から今日までの作業経緯を説明いたします。前回の委員会でのご意見を踏まえ、一旦委員長と事務局で取りまとめを行い、12 月中旬過ぎに各委員へ報告書案を送付させていただき、新年の 5 日までに各委員からご意見を頂戴いたしました。そのご意見を含め委員長と事務局で最終校正を行いまして、各委員へ最終確認を行うという手順で進めてまいりました。前回委員会では、報告書のたたき台の資料について議論をお願いしましたが、次にそこからの変更点を中心にご説明させていただきます。

まず報告書の表紙をめくっていただき、目次をご覧いただきたいと思います。

「はじめに」は増田委員長に手直しをお願いしました。

次に、1 泉佐野市の行政評価についてのところですが、前回、現状、課題、方向性という構成としておりましたが、委員会で行政評価の現状の後に外部評価をどのように進めたかを説明しないと分かりにくいのではとのご意見があり、(1)「現状」の後に、(2) 外部評価の進め方として 2 ページに評価のフロー、3 ページに外部評価対象施策の抽出、評価の方法として整理しております。

次に課題のところは、(3) 評価結果（課題と改善の方向性）とさせていただき、前回外部評価シートの構成に合せて整理すれば、分かりやすいのではとのご意見をいただきましたので、4 ページに①施策の成果指標の妥当性について、5 ページに②目標値の設定について、6 ページに③施策評価基準について、6 ページから 7 ページに④内部評価に対する指摘事項について、7 ページから 8 ページに⑤その他として行政評価システムを含めた提言の構成としており、また、各章ごとの順番で整理をしております。

9 ページをご覧ください。「今後の泉佐野市の外部評価の手法等について」を取り纏めていただいております。

1 案は、毎年外部評価を実施する方法と、2 案は適切な時期にスポット的に実施する方法の 2 案が示され、委員会としては 2 案を推奨するとの結論となっております。

11 ページから 16 ページにかけまして、各章の外部評価シートとなっております。

主な変更点だけを説明させていただきます。11 ページの第 1 章コミュニティの活動支援、下段の提言の 1 行目町会加入だけの把握ではないとのご意見を頂き、「町会の実態や活動内容の把握」に変更しております。

12 ページ青少年の健全育成の同じく下段③の提言 1 行目「広域的に点在しているため」を「地域的に偏りがあるため」に変更しております。

次に、13 ページ第 3 章の家庭と地域における子育て支援の③内部評価への指摘事項の上から 4 行目「高い次元から評価」を「大局的な視点から評価」の表現が適切であるとのご意見をいただき、変更をしております。

16 ページ第 6 章市営住宅の整備の③の提言の二つ目「進むべき基本方針を明確に定める必要がある」を「市の住宅政策のビジョンを策定し、個別施策をそこに位置づけて遂行していく必要がある」に変更しております。

17 ページ以降の資料等については、事務局にて再度見直しを行い、修正をさせていただきました。

以上で主な変更点の説明とさせていただきます。

【委員長】

ありがとうございました。年末から年始にかけていろいろと細かい点も含めてご指摘いただき、事務局の方で十分推敲いただいて、私の方でも目を通させていただきましたが、本日に至ったということですのでございます。内容に関しては皆さんご了承いただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。せっかくお集まりいただいておりますので、外部評価

をしてみたの感想を少しお聞かせ頂ければ、事務局の方もこれから具体化していく中で参考にもなるかと思しますので、いかがでしょうか。

【委員】

今回、外部評価にあたって、最大の制約要因は財政問題でした。何を言っても財政問題が当たってきます。一例として、市営住宅の空室を減らすために改修が要る、そのためには費用が要するという話になってしまう。単純に施策として空室率が高いのは良くないと我々申し上げても、財政の壁にぶつかってしまうというジレンマがありました。

【委員長】

そういう面では全て削減していくだけではなくて、投資をしないといけないところはきちんと投資をするという必要があるということでしょうね。

【委員】

財政はもちろん非常に厳しいのですが、弾力的に配分する部分が必要です。そういう点では商工業の問題で、本当に泉佐野市が必要としているのは、このままでは活力が落ちていきますので、活力を上げることがより重要であって、産業を誘致するとかいう面にある程度予算を配分して取り組んでいただかなければいけないと思うのですが、担当部課が今までの仕事をそのとおりにやっているだけという感じがしました。この状況で何をしなければいけないのかという問題意識を掘り起こして取り組んでいるという部分が少し弱いところがあったのではと思いました。私も泉佐野市で住んでいますが、工場が閉鎖された跡が更地に残っている箇所が非常に多いという現状を見ておりましたら、このままでいいはずがない。何らかの方向性なり、ワンストップサービスといった提言もあったわけですから、そういう方法を取って、それらを活用できるような市の指導性が必要ではないか、と思います。

【委員長】

どちらかという行政ですから、財政が厳しくなると歳出を如何に減らすかという話ばかりになって、歳入を如何に高めていくかという議論に中々いかない。そのあたりの重要性でしょうね。

【委員】

NPO 法人や青年会議所をもっと活用していただいて、こういった方向性を突き詰めていくことも重要だと思います。手の届かないところを NPO 法人のスペシャリストを使って頂いて、両面から目的達成に向かっていくことも 1 つの方法かと。報酬の発生しないビジネスも最近取りざたされていて、寄付を総括する窓口が必要だということで動いている青年

会議所もありますし、行政だけで進むのではなく、多くの NPO 法人や青年会議所も巻き込んで、いろいろ活動していただけたら。貝塚市さんなども年初に市長と JC 理事長が対談されて、JC の運動と市の施策を話し合っ、役割分担をされているようですし、両輪の一つとして活用していただければ、今回取り上げた施策についても、改善される部分や新たな着目点が出てくるのかなと思いますので、今後私たちの運動にも活かせるのかなという気づきを多くいただきました。

【委員長】

総合計画を作ったときも、今までどちらかというと行政計画だったのですが、そうではなくて、市民の方々や民の力を如何に活用しながら展開していくかという部分はこれから益々重要になっていくでしょうね。

【委員】

おっしゃるように産官民という取組みが非常にされてきている中で、できない部分もあるかも知れませんが青年会議所を巻き込んでいっていただいたり、私たちの事業にも担当部署の方々が積極的に参加していただいたりしたら、また新たな発見があるのではと思います。

【委員】

私は、皆さんスペシャリストの中で、忘れないでおこうと思ったのは、市民目線、女性の視点や主婦の視点ということはぶれずにとっていました。この文書ひとつひとつにおいても、真の主婦目線だったら、この文章を読んでいて何行もつだらうとか、そういう視点でずっと取り組んできたつもりです。今回のこの報告書も分かりやすく良いものができて、この委員の仕事をさせていただいてやりがいがありました。

今回市役所の方と交流をしている中で、職員一人一人の個人の能力は高いのに、こういう会議に出てくると意欲や熱意が伝わってこない。昔からの慣習や時代をそのまま受け継いできているという歴史的な背景も市役所の中にあるのではと思ったりして、私たちの外部の目やちょっとした一言で気づきがあったり、こうすればいいですよという市民の意見にすぐ対応をしてもらえたことで、市と交流すれば良くなっていくということを体験させていただいたので、また機会があれば自分からも入っていったらと思うことと、いろいろな部署の方や先生達とも知り合えて、繋がっていけるということ、もっと市民ひとりひとりにそういう機会を持てるような仕組みができ、私もその橋渡しになれることを模索していきたいなと思っています。

【委員長】

行政用語と言うのですか、文章を書くと自己満足型になってしまっ、人から見ると分

からないという文章になっているのを、外部からの視点を入れていただくと良く分かりやすくなってというのは重要な視点です。それと役所の方々は優秀なのに、どこかで委縮している。むしろ持っている能力を如何に開放していくかが大事で、財政が厳しくなると委縮する方向にいきますから、やりがいを獲得していただくために最後文章を入れたのですが、やりがいみたいなものを獲得していただくことにより、能力を発揮されていくのかなと思います。ぜひ、いろいろな機会でも外部との連携、ネットワークを大事にする形になったら良いと思います。

【委員】

泉佐野市で今回初めて実施ということですが、今後こういう形の外部評価の方法なり、市民に、市の行政を評価しているという委員会がありますという意義を広く広報していただいて、もうひとつは各自自治体で手法は異なりますが、泉州地域の隣接市町がどのような取組みを参考にして、お互いの自治体が協力するという面もありますので、独自で進めるのではなくどういう取組み方をするのか。もうひとつは今回こういう形で評価を市に向けて出すということですが、今後の外部評価の進め方をどういった形でもっていくのか、適切な時期に開くというのはあまり間延びしてしまうと委員会の存在意義が無くなってきます。各委員の意見が出ていますように、こういう目で眺めていますということをひとつの刺激剤で受け止めてもらいたい。今回の外部評価についてどれだけ市民に認知されているのか疑問だと感じました。

【委員長】

成果をきっちりと広報するということがひとつです。外部評価という仕組みが初めて運用されましたということを皆さんに知っていただくということ。もうひとつは、このまま終わらせるのではなく、ここの提言を具体的改善行動にどう繋がったかということを見せさせていただくという形で、どういう効果が具体的に表れたかということを常にそういう目で見ていただくということが非常に重要だと思います。

【委員】

最初の委員会の時に PDCA サイクルのことをおっしゃっていたのですが、この報告書で改善の方向性が打ち出された訳ですが、現課レベルで PDCA サイクルをどう実施していくかという道筋を是非つけていただいて、次回 24 年と 27 年と書いてありますが、この時の施策評価に抽出する施策は今回と違うかもしれませんが、その時に、PDCA サイクルを回してみてこれほど改善しましたという外部評価の成果を報告していただくことと、それで成果を上がらなければ、外部評価の在り方に問題があるのか、PDCA サイクルに問題があるのか、現場が無視したのか、いろいろ課題が見つかると思います。次回に道筋を今からつけていただかないと、書いて、出して、終わったということでは少しもったいないと

思います。

それから、この外部評価を踏まえた三次評価をした後の取り扱いはどうなっていますか。これはそれで終わりですか。

【市長公室長】

抽出していただいた施策につきましては、2次評価まででお願いをしましたので、この委員会での評価を頂戴した後、2月の初旬に理事者査定ということで、市長に協議をさせていただいて、最終どのような形で評価させていただくか今後決めさせていただく予定をしております。抽出以外の部分につきましては去年と同じ形で3次評価まで既に行っておりますので、集約した形で3月の行財政委員会に全体の報告させていただく予定です。ただ、今のシステムそのものはポイント制で、平均点が出てその点数によって評価されるシステムで今までやってきたのですが、今回委員会で皆さんにご議論いただいて、もっと客観的に見た評価を頂戴しておりますので、そのあたりをどうするのか、市長と協議させていただいて、できれば他の全てをもう一度やり直すということにはならないと思いますので、部分的な修正になるのか、次年度そういった形のシステムづくりにするのかということで結論を出していきたいと思っています。

【委員】

行財政委員会にご報告なさって終わりですか。

【市長公室長】

元々PDCAサイクルというのは前年度に基づく評価を事務事業・施策やった上で、その評価結果が出た後に来年度予算要求をするという流れでやっています。評価と担当課との要求を見比べて行財政管理課で予算査定をするということになっていますので、この流れは基本的には変わらないのかなと思っています。

【委員】

私が今申し上げたかったのは、この外部評価委員会も公開で行いましたし、市民参加できていただいていますから、市の施策は市民のものでありますから、その評価結果も予算でサイクルが終わるのではなくて、ホームページ等で公表したらどうか。他市との比較評価を進めて、それらを公開していくことが望ましいし、そういう観点で見ますと、かなり分かりやすくはなったけれど、もう少し分かりやすく、図やグラフとかを活用しながら、行政評価を示せると、市民の関心も変わってくるのかな。この取り扱いをオープンな形でお願いしたい。

【市長公室長】

事務事業評価、施策評価は全てホームページで公開させていただいているんです。ご指摘のようにシートそのものを見ますと非常にたくさんデータが詰まっているという状態でございまして、中々市民受けしないと申しますか、もう公表して何年も経つのですが、それに対するご意見は頂戴できていないというのが実情でして、今おっしゃっていただいているようにもっと工夫をしてお分かり頂きやすい形をもう少し考えて、他の方法も検討していきたいと思っています。もちろん今回報告書という形で市の方へお出しいただきますので、もちろんその内容を踏まえてできましたら今年度中に今後の評価システムの在り方というのを市の方で整理させて頂いて、最終こういった形で各委員にお知らせさせていただきます。市民の方にも公表していきたいと考えておりますので少しお時間を頂けたらと思います。ありがとうございました。

【委員長】

皆さん、ありがとうございました。今いただいた意見も踏まえて、今日副市長の方へ提出しますので、皆さん方からいただいた意見、特にこの成果をどう活かしていくのかということだと思います。これで終わりましたというのが成果ではなく、この成果が施策にどう反映されていったのかということが一番大きな意義でしょうから、皆さんからいただいた意見を踏まえて、副市長の方にお伝えさせていただきたいと思います。やはり、積極的に収入を高めていくための戦略の在り方であるとか、あるいはJCはじめ民との一体性、市民との一体性、連携の在り方であるとか、あるいは外部評価そのものの公開性と同時に施策への展開の仕方、具体的反映の仕方ということを如何に掲げていくかということをもとめて少しお話させていただこうと思っています。これだけ見せて市民には分からないよというご指摘をいただきましたけれど、一応の成果として取りまとめることができたということでした。ご協力いただきましてどうもありがとうございました。これからは都計審などで泉佐野市とはお付き合いがございますし、市民の方々も少し育てる目と、温かい目と、厳しい目で行政を見て頂いて、本当の意味で良い市へ展開していければと思いますので、これからはよろしくお願いしたいと思います。それでは事務局の方へお返ししたいと思います。

【市長公室長】

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、長期間に渡り本委員会にご参加、ご協力を賜り、本当にありがとうございました。市では、今後この報告書の参考にいたしまして行政評価の在り方というものを今年度検討として成果として出して参りたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

この後別室におきまして、市への報告書の提出をしていただきますが、本日は、市長が不在でございますので、副市長が代理で受取らせていただきますので、ご了承いただきます。

それでは、4 階、ひとつ下の階になりますので、移動していただきますようお願い致します。